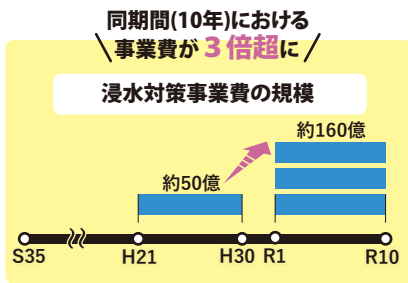
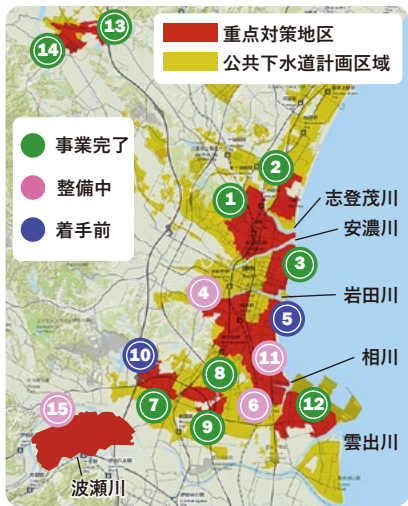


雨水管理総合計画(R1～10)事業スケジュール

重点対策地区名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
①上浜										➡
②栗真町屋										➡
③橋内東部第二										➡
④半田川田										➡
⑤阿漕										➡
⑥天神・大新田										➡
⑦北部第一										➡
⑧野村第二										➡
⑨野村第一										➡
⑩相川上流										➡
⑪藤方第二										➡
⑫長浜・伊倉津										➡
⑬志登茂川上流第二										➡
⑭安濃川上流左岸第二										➡
⑮波瀬川第六・七										➡

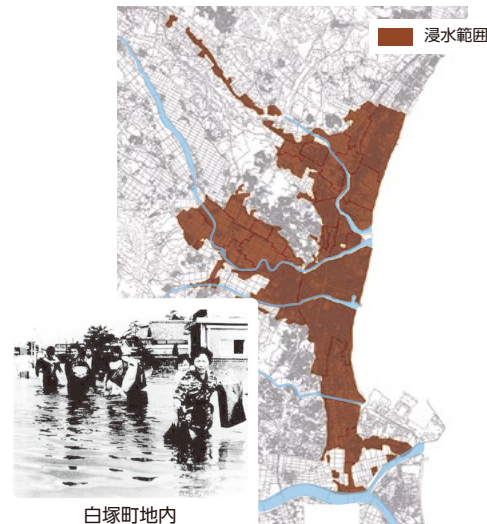
※⑮は令和5年の津市雨水管理総合計画改定により追加

※ ➡ 設計等期間 ➡ 工事等期間



津市雨水管理総合計画に基づき、15の重点対策地区で浸水対策を集中的に進めています。計画期間中の浸水対策事業費は、国の「防災・安全交付金」と「大規模雨水処理施設整備事業」を活用し、約160億円を計上します。

02 令和の雨水対策 雨水管理総合計画に基づく展開



白塚町地内

昭和49年時点で21施設だった排水機場施設は、平成16年には50施設まで増設。排水処理能力の向上により被害が大幅に軽減



上浜町二丁目地内

浸水被害※1				雨量データ		
浸水解消時間最大	浸水最大面積	床上浸水	床下浸水	最大降水量1時間	最大降水量24時間	総降水量
約48時間※2	3583ha	8213棟	4317棟	68mm	277・5mm	330・5mm

浸水解消時間最大	浸水最大面積	床上浸水	床下浸水	最大降水量1時間	最大降水量24時間	総降水量
約8時間※2	1701ha	1653棟	470棟	98mm	427mm	440・5mm

昭和49年時点で毎分3,325m³だった排水処理能力は、令和6年には毎分17,734m³へと約5倍に向上。昭和49年の豪雨と比較すると総降水量が約1.5倍であったにもかかわらず被害は大幅に軽減



高茶屋小森町地内

S49豪雨との比較

浸水被害面積
2,700分の1
浸水解消時間
16分の1

浸水解消時間最大	浸水最大面積	床上浸水	床下浸水	最大降水量1時間	最大降水量24時間	総降水量
約3時間※2	11・4ha	3棟	0棟	73・5mm	325・5mm	501mm

93.8% DOWN
99.7% DOWN
99.9% DOWN
100% DOWN
8.1% UP
17.3% UP
51.6% UP

※1 浸水被害のうち、昭和49年・平成16年は合併前の旧津市のみのデータ
※2 浸水解消時間はいずれも道路冠水時間を比較し、昭和49年・平成16年は災害関係記録に基づく推計値、令和6年は浸水センサ検知結果に基づく時間

Pick up! 重点対策地区の整備等状況

15 事業費：約17億円 波瀬川第六・七排水区

第六雨水ポンプ場

令和6年度着手 ▶ 令和11年度完了予定



台風時の一級河川 波瀬川の状況



「雲出川流域治水プロジェクト」の計画区域

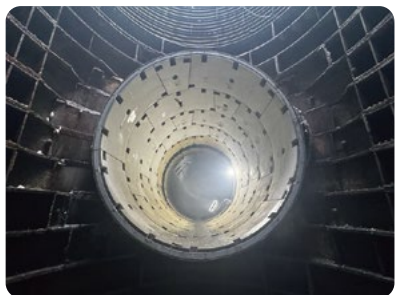
11 事業費：約57億円 藤方第二排水区

管路延長：1,517m

令和元年度着手 ▶ 令和8年度完了予定



管径3.4mの雨水管を築造したシールドマシン



約1万3,700tの雨水を貯留可能な「地下のダム」として機能する貯留管

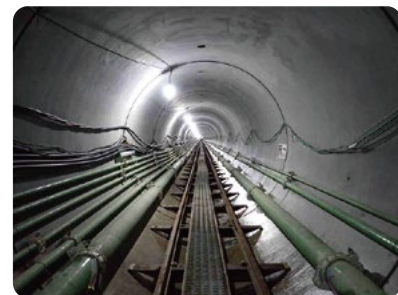
4 事業費：約48億円 半田川田排水区

管路延長：1,986m
雨水ポンプ場

令和元年度着手 ▶ 令和8年度完了予定



管径2.8mと2.6mの雨水管の合流箇所



管径2.2mの雨水管の内部

昭和49年7月 集中豪雨
発生日：7月24日～25日

平成16年9月 台風21号
発生日：9月28日～30日

令和6年8月 台風10号
発生日：8月29日～9月2日

01 浸水被害範囲の推移 昭和・平成・令和

昭和30～40年代、農地や国道23号沿線の宅地化に伴い雨水流出量の増大が懸念されました。そこで、雨水を河川などに排水する施設（雨水幹線、ポンプ場）を整備する都市下水路事業（後の公共下水道事業）を実施。令和6年度までに雨水幹線整備総延長3万6759m、総事業費約641億円（うち都市下水路事業が約388億円）をかけ、雨水対策を行ってきました。